

平成27年度 あげぼの保育園セルフチェック(保育者用)結果

平成28年 4月16日
①(H27. 12. 15. ~22. 実施)

【はじめに】

平成27年度より『子ども子育て支援新制度』が導入されました。当園では、上半期、自己評価表の見直しに取り組みました。例年2回実施していた自己点検自己評価が、今年度は年末1回のみの実施となりましたが、セルフチェックという新たな形に再構築を進めるなか、教育及び保育の更なる進化・深化への手がかりや気づきも多くありました。今後への課題や目標としていきます。

今年度(27年度)は、保育者(18名)のセルフチェックを1回実施しました。これはその結果です。評価点は下記【評価基準】を5点満点に変換後の平均値表示です。どうぞ、ご覧いただきたいと存じます。

【評価基準】 A:かなりできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない

【評価項目と評価点】

	評価点
1 あなたは園の保育理念や基本方針を理解し、正しく述べるができる	3.2
2 「教育・保育要領」、「保育指針」を読んだことがある	3.4
3 乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している	4.5
4 乳幼児期の教育及び保育で、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われることを理解している	4.4
5 乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解している	4.4
6 子ども一人ひとりの特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うように努めている	3.8
7 登園時の、子どもの健康観察を行い、子どもの状況に応じた対応をしている	4.1
8 子どもとの温かなやり取りやすキンシップを、常に心がけている	4.1
9 子ども一人ひとりに、分かりやすい温かな言葉で、おだやかに話しかけている	3.8
10 「早くしましょう」など、せかす言葉をできるだけ使わないで、一人ひとりに合わせた対応を心がけている	3.2
11 「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしている	3.3
12 「待って」「あとで」などと言わず、なるべくその場で対応するようにしている	3.4
13 「できない」「やって」「いや」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受け止めて対応している	3.8
14 子どものなかに感染症が発生したとき、発生状況や予防対策などをすぐに全保護者に連絡している	3.7
15 手洗い場やトイレを適宜清掃し、常に清潔を保つようにしている	4.1
16 施設・設備の安全に関する点検を、マニュアルに沿って確実にやっている	3.5
17 災害時に身を守るための避難訓練を、子どもが自分から進んで参加するよう実施している	3.7
18 あなたは、不審者が園内に侵入した際どのように対応するのかを理解している	3.2
19 食べ物を残したり偏食したりするとき、過度に叱ることがないように心がけている	3.9
20 あなた自身が「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の気持ちをもって食事ができるよう努めている	4.6
21 食事の際、子ども同士が会話をするなど、楽しんで食べることができる雰囲気づくりに配慮している	4.0
22 食物アレルギーのある子どもに対して、園医やかかりつけ医と連携して除去食をとり入れる、などの配慮をしている	4.2
23 障がいのない子どもも障がいのある子どもも、互いの良さを感じ取るように保育の配慮をしている	3.9
24 あなたは、担当しているクラスの子どものもつ障がいについて、その子の保育に必要な知識をもっている	※ 1 { 2.9
25 障がいのある子どもの保護者と話し合う場を日常的に設け、信頼されるよう努めている	2.6
26 発達過程区分は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人ひとりの子どもの発達過程としてとらえている	4.0
27 あなた自身が、子ども同士の関係の基盤となるように、一人ひとりの子どもと信頼関係を構築している	3.9
28 子どもが、興味や関心をもったものに対して自分から関わろうとしている姿を、認めたり、励ましたりしている	4.1
29 発達の気になる子どもや障がいのある子どもに対しても、子ども自身の力を十分に認め、適切な援助及び環境構成を行っている	3.7
30 様々な活動に親しみ、保育者や友だちと楽しんで遊ぶことができるよう、環境を工夫している	3.5
31 生活に必要な習慣が身につくよう家庭との連携に努めている	3.1
32 子どもが園生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動できるよう、働きかけている	3.7
33 ケガをしないように安全に生活する方法を身につけ、自分の体を大切にしようとする気持ちを育てている	3.7
34 火事、地震以外の災害を想定した避難訓練も行っている	3.2
35 自分でできた、という充実感を味わえるような活動を取り入れている	3.6
36 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気づくように、言葉がけをしたり、見守ったりしている	3.8
37 友だちとの関わりを深め、思いやりを育むように、機会をとらえて話したりして、働きかけている	3.9
38 友だちと生活するなかで、きまりの大切さに気づき守ろうとすることを、日々の生活や遊びで体験するよう援助している	3.7
39 家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちが育つように、いろいろな機会を見つけて話しかけている	3.1
40 身近な自然事象に触れ、「どうして」や「なぜ」といった疑問に対して、あなたも一緒に考えたり調べたりしている	3.4
41 自分のもの、他人のもの、共同のものの区別気づけるような機会を、提供している	3.6
42 地域で働いている人たちに、子どもたちが出会う機会をつくっている	※ 2 2.0

43	あなたは、子どもが話しているとき、最後までゆったりと聞くよう努めている	3.9
44	子どもが「ありがとう」「ごめんなさい」など、自分の気持ちを相手に伝える言葉を使えるように心がけている	4.3
45	紙芝居や絵本の読み聞かせのときには、あなた自身もその内容を楽しんでいる	4.3
46	好きなように歌ったり踊ったりできるように、楽器などを自由に取り出せる場所に置くなどの工夫をしている	※3 { 1.9
47	音楽鑑賞や観劇など、素晴らしい表現に触れる機会を設けている	1.9
48	かいたり、つくったりすることを楽しみ、それらを飾ったり、遊びに使ったりできるように保育の配慮をしている	3.7
49	自分のイメージを言葉や体の動きなどで表現したり、演じて遊んだりして楽しめる機会をつくっている	3.1
50	一人ひとりの子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心がけている	3.4
51	一人ひとりの子どもの生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保している	3.5
52	ベッドから離れるときには、必ず仰向きに寝かせていることを確認している	3.5
53	離乳食は、一人ひとりの育ちやその日の体調に合うよう、家庭や給食職員と連携をとって、工夫している	3.5
54	床に誤飲しそうなものが落ちていないように、十分注意を払っている	4.7
55	一人ひとりの子どもに、いつでもやさしく対応するように努めている	4.0
56	喃語には、ゆったりとやさしく応えている	4.3
57	たて抱き、腹這いなど、発達に応じて子どもが様々な姿勢をとれるよう心がけている	4.1
58	季節や天候に応じて、戸外遊びを行うなどの機会を設けている	4.3
59	あやしたり、抱いたりして、子どもが人に触れられて心地よいと感じる関わりをしている	4.1
60	保護者の気持ちを配慮し、送迎時に安心できるような関わりをもてるよう心がけている	3.9
61	基本的な生活習慣の習得については、子ども一人ひとりの発達過程に合わせて、無理なく行っている	3.8
62	楽しい雰囲気なかでスプーン、箸などを使いながら、自分で食事をしようとする気持ちを大切にしている	4.2
63	子どもの手の届く範囲にあるものの安全性について、いつも確認している	3.9
64	物の取り合いなどの場面では、保育者が互いの気持ちを受け止め、それを分かりやすく伝えている	4.1
65	進級などで保育者が替わる場合は、子どもが不安にならないように、職員間で情報を共有している	3.8
66	指導計画は、「教育・保育課程」あるいは「保育課程」などに基づいて作成している	4.2
67	子どもの興味・関心や意欲に合わせて活動が展開できるように、週・日案などの指導計画を、作成している	4.2
68	あなたの保育について反省・評価し、それを次の指導計画の作成に生かしている	4.0
69	保育記録を、毎日記述している	4.1
70	締め切りのある仕事や提出物は期日を守っている	3.9
71	その日にあった出来事や気になる子どもの様子などを、他の職員と共有している	4.0
72	同僚の役割とあなたが果たすべき役割とを、それぞれ理解している	4.0
73	自己評価などで課題を見つけ、自分の保育を振り返る機会を定期的にもち、その課題の解決のために計画的に自己研鑽している	3.1
74	自分の保育について、園長などからの感想や意見、アドバイスを、感情的にならずに謙虚に受け止めることができる	4.1
75	あなたは、保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう、心がけている	3.7
76	保護者からの相談・苦情内容などを、あなた一人の問題にしないで、園全体で受け止めようとしている	4.1
77	個人情報保護の観点から、常に対応している	4.1
78	地域の家庭を対象とする相談や遊び場の提供など、子育て支援のための園の取り組みを理解している	3.5
79	虐待が疑われる保護者と子どもに対する適切な対応を、理解している	3.7
80	中高生等の保育体験やボランティアを受け入れる際には、その意義や方針を理解・確認している	3.5
81	実習生を受け入れるときには、意義や方針を理解し指導的立場にあることを意識している	4.0
82	あなたは、小学校との連携の大切さを認識し、学童保育の意義や方針を理解・確認している	3.5

【コメント】

今回も保育者としての在り方や現状を見直す良い機会が持てました。全保育者において、日常の動き(言動)や専門職としての理解や資質、乳幼児保育への情熱などを再確認する機会になりました。集計結果は上記の通りです。到達度を自己確認し自己肯定感を育みながら資質向上へとつながるように取り組みました。自己評価に取り組むなかで、その内容を理解すればするほど自分自身に厳しくなったり(↓)、日頃の実践を自信に繋げて成長する過程を踏まえて(↑→・↓)が段階的に表れるものと、園やスタッフとしての取り組み不足や認識不足から表れるものがあります。前者は、一喜一憂することなく前向きに取り組んでいく課程を大切にしていきたいと考えます。後者は自己反省に基づき、組織力と計画性をもって努力して参ります。今回特に※1の「障がい」についてはより一層の専門知識の修得や信頼関係の確立に、※2の「地域性」についてはスタッフが地域との関わりを持てるように、※3は「表現」という視点も踏まえて保育環境を見直していくように努めて参ります。まずは一人ひとりが、自分自身に対して日頃より自問自答する中で、「人」として磨きかけるべきだと考えます。「人間力」です。そして、子どもたちや保護者、地域に対する職業奉仕の心をもっと育てていきたいです。全スタッフが心をひとつにして子どもたちの育ちに携わっていくべきだと考えています。今後も、スタッフ一人ひとりが感謝の気持ちと学びの精神を持ち、常に積極思考で日々の保育に取り組んでいきたいと考えます。

今後は、チェック項目の更なる適性化を図り、個やチーム、全体としてのセルフチェック結果自体の分析と個別・具体的課題を浮き彫りにし、具体的取り組みへと繋げていけるような仕組みづくりへと繋げていきたと思っています。保護者の方々にもご理解とご支援を賜ることになりますが、よろしく願ひ致します。
(園長 上原樹縁 / 副園長 上原サチ)